

第65回

全国高等学校PTA連合会大会 岩手大会

「未来圏からの風をつかめ！～新時代を担う君たちと共に～」



8月20日(木)～21日(金)「第65回全国高等学校PTA連合会大会 岩手大会」に小林校長、執行部2名が参加させていただきました。全体会では各都道府県から保護者、教員の方々約1万名がメイン会場岩手産業文化センター、サブ会場盛岡市アイスアリーナに集結。「未来圏からの風をつかめ！新時代を担う君たちと共に」を大会のテーマとし、PTAとして子どもたちの育成にどう携わるべきか聴講して参りました。



地元新聞にも今大会の様子が掲載されました。



《全体会・基調講演》

「夢高くして足地にあり The sky is the limit」
芝浦工科大学長 村上雅人氏
自分の経験をもとに専門分野の超電導工学をふまえ、教育の大切さと、「偉大な教師は、学生の学びの心に火をつける」と、尊敬できる先生との出会いの大切さを語られました。

《分科会》

全体会の後は7つの分科会会場に分かれて、それぞれ研究発表が行われました。私たちは特別第1分科会場に向かいました。テーマは「情報社会と教育～スマホ・ネット依存者と若者の生活スタイル～SNSコミュニケーショントラブルとネットいじめ、ネット長時間使用によるネット依存傾向とデジタルデメンチア(思考力を奪う認知障害)の講演。そして主体者としての生徒の自覚を育てる取組みの紹介。保護者・教師・現役高校生・大学生によるパネルディスカッション。高校生の即座にしっかりした受け答えに将来の有望を感じました。



《全大会・記念講演》

「アドリブを生きる力」映画監督 大友啓史氏
「ハゲタカ」「るろうに剣心」「プラチナデータ」を監督
最初から答えはなくていいんだ。逃げないでなんとかしようと思っているとなんとかなる。不可能なことに直面したとき、誰かの指示を待っていても進まない。アドリブがきく人は突発的な事に対処できる能力があり、現場にパワーがわき、思いがけない面白いものが生まれる。アドリブで生きる力を蓄えてほしい。と講演されました。



《大会後、震災復興視察》

約4年半前の東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた岩手県宮古市田老地区を訪れました。

過去に1896(明治29)年、1933(昭和8)年の大津波など、数度に渡る大津波を経験しながらも、その度、まちを先人たちが復興させてきた田老地区。大津波の経験をもとに、万里の長城と呼ばれる高さ10mものスーパー堤防、すべての人が高台に5分で避難できる道の完備、防災教育にもまちをあげて取り組み「津波防災のモデル」として国内外に名をはせ、2003(平成15)年には「津波防災のまち」を宣言しました。

しかし、2011(平成23)年3月11日の東日本大震災では、最大波高16mもの津波が市街地に押し寄せ、多くの被災者がでてしまいました。スーパー堤防に囲まれ、逃げ道も完備しているにもかかわらず、津波が来るまで45分の時間がありましたが、181名の方が亡くなられた原因は、地震後の停電により防災無線が不通になり、最新の津波警報が届かなかったこと、高台に逃げたのに家に戻って巻き込まれてしまったこと、何より「防災のまち」と呼ばれ、過去からの教訓がいつしか「逃げなくてもよい安心して暮らせるまち」だと過信する人がたくさんいて逃げなかったことにあります。スーパー堤防は津波の侵入を遅らせるなど、一定の効果はあったものの、防潮堤の存在が安心感を与えたこと、10mの防潮堤の向こうで起こっている大津波の状況が確認できなかったことなどが、かえって人的被害を拡大してしまったようです。「自然はいつも人間の想像を超えるんです」と語り部の方の言葉、凶らずも自然の猛威に人工物で対抗することの限界を露呈する結果となってしまいました。今回の視察では設備完備に加えて、防災意識強化の重要性、そして震災の記録を後世に語り継ぐことの必要性を感じました。

今回は、ご自身も大変な目に遭われた防災ボランティアの語り部の方に案内していただきました。被災してしばらくは当時の状況を話すだけで涙が止まらなかったとのことですが、今は堪えて話すことができるようになりました、と。しかし、その目には涙が光っていました。

実際に第1防潮堤に上り上がって当時のお話を聴きました。

そして場所を建て物の中に移動し、津波で1～3階まで被災した「たろう観光ホテル」の社長がホテル6階から撮影した津波当日の実際の映像。見るに堪えない映像でしたが、後世に残す記録として社長が撮った映像。実際にこの地に来てみて、観て感じて欲しいと、この場に訪れた人にだけこの映像をお観せするとのことでした。

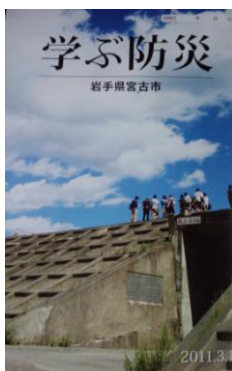
「つなみてんでこ」・・・てんでん・ばらばらに逃げなさいという意味だけではなく

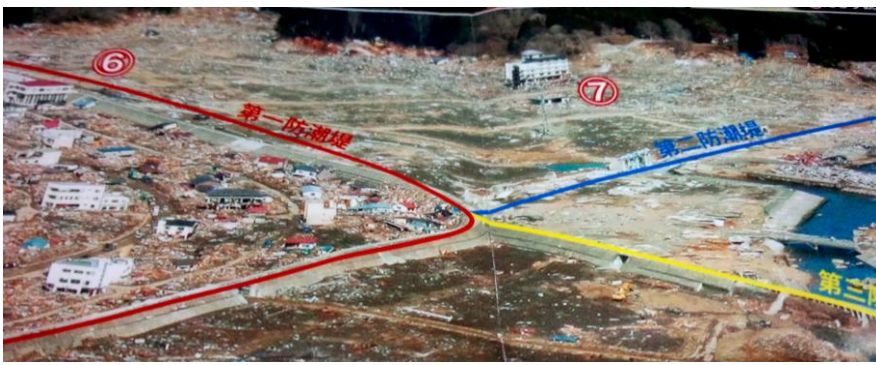
「てんでこ」とは、それぞれが自分の命は自分で守るという防災教育です。

まず、高台ににげること。逃げたら戻らないこと。自分の命はとにかく自分で守って。生きていさえすれば、何日かあとには会えるのだからと。

最後に語り部の方から、広島の人たちに、「忘れないでいてくれてありがとう。

私たちは元気で頑張っています」と伝えてくださいとのことでした。





被災前の田老地区

赤線・・・第1防潮堤
青線・・・第2防潮堤
黄線・・・第3防潮堤

破壊されなかった第1防潮堤
流された遺体はここで留まりました



田老の津波防災対策概要			
1.被害状況	明治29年(1896)6月15日	昭和8年(1933)3月13日	平成23年(2011)3月11日
	PM7:22 強震	AM2:30 強震	PM2:46 震度5弱
マグニチュード	8.5	8.3	9.0
最大波高	15m	10m	平均16m
罹災戸数	336戸	505戸	1,691戸 (非住家含む)
死者・行方不明者	1,859人	911人	181人(うち行方不明41人)
漁船流出	540隻	909隻	855隻
2.津波防潮堤			
	第一防潮堤	第二防潮堤	第三防潮堤
高さ	10m	10m	10m
長さ	1,350m	582m	501m
工期	S9~32年度	S37~40年度	S48~53年度

津波で完全に破壊された第2防潮堤
流された遺体は太平洋に・・・
(行方不明41名)



津波防災の町宣言 (平成15年)



今後、区画整理され、復興に向けて動いています



津波到来時、
浸水区域かどうかの標識



過去の大津波の最大波高



東日本大震災時の津波浸水深のライン

(参考：宮古観光文化交流協会発行パンフ)